

## 近森会グループの看護新体制

近森会グループの看護部が新しい体制でスタートすることになりました。新しく統括看護部長補佐に岡本充子、近森病院看護部長に吉永富美、近森病院副看護部長に川村久美子が就任しました。

近森会グループ統括看護部長  
梶原 和歌



近森会グループ統括看護部長補佐  
岡本 充子



近森病院看護部長  
吉永 富美



近森病院第二分院看護部長  
松永 智香



近森リハ病院看護部長  
寺山 みのり



近森オルソリハ病院看護部長  
尾崎 貴美



近森病院副看護部長  
川村 久美子



### 現場に強いリーダーで

近森会グループ  
統括看護部長 梶原 和歌

3人の新しい看護トップリーダーが選任されました。近森病院看護部長に吉永富美さんが、副看護部長に川村久美子さんが、又統括看護部長補佐に老人看護専門看護師の岡本充子さんがそれぞれ発令を

受け部長室も一新しました。吉永さんは近森病院に就職して27年、川村さんは26年と共にこれまでの近森病院の変革に深く携わってきたベテランです。吉永さんはシステム(電子カルテ他)担当として業務の標準化・効率化の面で貢献が大きく、川村さんは教育委員会や業務委員会の中で看護をする人の育成に努力してきました。岡本さんは、患者さんの高齢化率

が年々上がり複雑な健康問題をかかえた方やご家族の相談にのりながら良い看護が提供できる環境の整備に力を貸してくれると頼もしく思っています。来年夏の5カ年計画完成を目前に最終的なハード・ソフト面の調整をしていますが課題山積です。これまでさまざまな困難を乗り越えて改革を進めてこられた理事長のもと、皆さん一緒にがんばりましょう。かじはら わか

### 模索しながら

近森会グループ  
統括看護部長補佐 岡本 充子

2002年老人看護専門看護師の認定を受け、高齢者のために、そのご家族のために、そしてケアを提供する看護師のために何ができるのかを常に考え、近森会

で働いてきました。

時には行き詰まり、前に進めないときもありましたが、フツと肩の力を抜かせてくれ、背中を押してくれる仲間助けられ、老人看護専門看護師として成長し続けることができました。これからも高齢者県にある近森会で、老人看護専門看護師であり統括看護部長補佐である自分

に何ができるのか模索しながら、共に働く仲間とともに成長していきたいと思っています。

近森会の看護師一人ひとりが看護の仕事にやりがいを感じ、楽しく、そして質の高い看護が提供できるようにしていきたいと思ひます。

おかもと じゅんこ

### 環境を整える 近森病院看護部長 吉永 富美

スタッフが悩んだり、苦しんだりしながら、一生懸命に患者さんと向き合い、笑顔で頑張っている姿をみて、現場の力を強く感じます。看護部長として、スタッフ一人ひとりが、その力を十分発揮して、やりがいを持って看護できるように環境を整えることが看護部長の責務だと思っています。

近森病院看護部には、マンパワー不足や新病棟開設に伴う病棟編成等たくさんの課題があります。今回、業務や教育に強い川村副看護部長を迎え、現場のスタッフの意見を聞きながら、積極的かつタイムリーにそれらの課題に取り組んでいきたいと思ひます。

現場の生の声をお聞きしたいので、看護スタッフや他職種の方も気軽に声をかけてもらえると嬉しいです。また、看護部長室にもぜひお立ち寄りください。お待ちしております。

よしなが ふみ

### 声を聞きながら 近森病院副看護部長 川村 久美子

吉永看護部長から「新しい看護部と一緒に作ってほしい」という言葉をいただいて、副看護部長の役職に不安を感じながらも一緒に頑張ってみようと思ひました。

これまで、近森病院の教育師長として新人教育や現任教育に取り組み、看護の質向上を目指してきました。今後も、今までと同様に現場の声を聞いたり取り入れたりしながら、看護業務の標準化や効率化にも積極的に取り組んでいきたいと思ひます。

看護職員が働きやすい職場や、忙しいと感じる日々のなかでも、看護にやりがいを感じられる環境作りへ取り組んでいきたいと思ひます。これからも、いままで同様にみなさんの生の声を聞かせていただきたいと思います。どうぞ、よろしくお願ひします。

かわむら くみこ

# 胃カメラ、 ファイバー、 そして「電スコ」

近森病院消化器内科  
部長 高松 正宏



一般に胃の内視鏡検査を受けるとき、「胃カメラを飲む」といいます。その昔、胃の内視鏡検査は、小さいレンズとフィルムとフラッシュが入った文字通り「カメラ」が先端についた軟性鏡というやわらかいチューブを飲み、手でシャッターを切ることで胃の中を撮影していました。本当に「胃カメラを飲んでた」ということです。しかし、これではリアルタイムに胃の中は見えず、必ずしも目的とする部位が撮れているとは限りません。

そこでファイバースコープが誕生し

ました。これは光ファイバーの束を内視鏡に使用したもので、胃の中を直接観察できるようになりました。これにより、内視鏡は診断に加えて「治療」への応用が可能となりました。

しかし、観察者は接眼レンズを直接見ており、顕微鏡を見ている人のように、見ている人にしか見えず、周りの者には何が見えているのかさっぱりわかりませんでした。私が研修医の頃も先輩の先生がファイバースコープをしているのを横目にみているだけでした。ポリープの切除などの介助につい

ても、術者の先生に「違う、違う」と言われても、こっちは胃の中が見えていないので困ったものでした。

さて、CCD（デジカメの中に入っていますね）を組み込んだ内視鏡が電子スコープです。当初は「電スコ」というしていました。これにより、内視鏡の画像をテレビモニターに映し出すことができ、複数の医療スタッフが同時に見ることができるようになりました。

みんなに見えているから、介助も格段にしやすくなりました。その後もCCDの性能が向上し、アナログ放送が地デジに変わったように、内視鏡もハイビジョンシステムとなり、とても小さな病変も、診断できるようになりました。

さらに特殊な光を使った観察や、100倍もの拡大観察などができるようになり、「胃カメラ」の時代とは比較にならないほどの診断能を有するようになってきており、内視鏡はこれからも更に進化を続けることでしょう。

たかまつ まさひろ

## 8月の歳時記

### 向日葵

近森病院北館4階病棟看護師  
森田 祐貴子



向日葵はキク科の一年草で、高さ3mくらいまで生長し、夏には大きな黄色の花を咲かせる。大きなひとつの花の

ように見えるが多数の花が集まってひとつの花の形を作っている。【和名】向日葵の由来は、太陽の動きにつれてその方向を追うように回ると言われたことから。「あこがれ」「熱愛」「あなただけ見つける」などの花言葉がある。

もりた ゆきこ



少し気が引けるが、現在61～63歳世代の思い出から入りたい。「卒業」はダスティン・ホフマン主演の、日本公開が昭和43年(1968年)の青春映画である。昭和43年に始まった東大紛争のため、昭和44年2月は東大入試が行われず(受験生は本当に運が悪かった!)、昭和46年頃までは相当数の大学の構内が騒然とした世情であった。

私はそういう大学生時代にこの映画を見た。ヒロインのキャサリン・ロスの初々しい魅力、映画音楽「サウンド・オブ・サイレンス」「スカボローフェア」「ミセス・ロビンソン」(サイモン&ガーファンクル)のメロディーが今でも耳から離れない。結婚式でヒロインと新郎が今まさに誓いの口づけをする瞬間に主人公が「エレーン!」と叫び、新婦が「ベーン!」と応え、二人は手に手を取って教会を飛び出す。悪態をつくミセス・ロビンソン。この有名な、結婚式の最中に花婿から花嫁を奪うという結末は、この映画を見ていない人も知っているのではないと思う。

しかし2010年代の今なら、こんなことになる前に話の決着はついている

はずである。つまり1960年代は米国でさえ、子は親の意見に従い一族郎党の中で誇れる息子、娘を演じなければならなかったわけである。当時、時代は日本でも曲がり角にあり、若者が保守的概念に反発していたため、政治的主張を全く含んでいない映画であったにもかかわらず、心理的に若者の支持を得たのだろう。しかし今の若者がこの映画を見て感動するかどうかは判らない。あの時代には(嫌だなと思

つつも)親の言うことに従っていれば世間的幸福を得る可能性が高かったが、今は親の言うことを聞いても必ずしも幸福になれるわけではない。

## 気儘エッセー 3

### 「卒業」昔と今



近森病院外科部長  
田中 洋輔

1988～92年の間、日本の会社は(採用する学生のレベルを下げたまで)大量(~3倍)のバブル入社をさせた後、バブル崩壊後一転して新卒採用人数を絞るかゼロにした。2000年が就職氷河期の底と言われる。その結果、団塊ジュニア世代(1971～74年生まれ)、真性団塊ジュニア世代(1975～79年生まれ:三浦展の造語)は「卒業」時に就職できない苦しみを味わい、1970年以前生まれ世代と比べひどい格差が生じた。この世代では人生は「努力」ではなく、時代の「運」が最大の因子となった。

# DMAT 専用車が 導入されました

近森病院救命救急センター  
科長 井原 則之

DMAT は disaster medical assistance team の略称であり、「災害急性期に活動できる機動性を持った、トレーニングを受けた医療チーム」です。2005年から厚生労働省が全国の医療機関に養成を開始し、近森病院では2007年から組織されました。最近では2011年3月の「東日本大震災」において、地震発生後3時間後に出勤し、福島県に入って災害対応活動を行いました。

災害で怪我をした方々のトリアージや治療などを行うだけではなく、ヘリなどを使っての搬送活動や情報収集活動、救助隊や自衛隊などと共同しての救助活動、DMAT に対する指揮なども含めた活動を行います。このため、DMAT が所有する資器材は医薬品や処置に必要な道具だけではなく、パソコン、衛星電話、プロジェクター、プリンター、発電機、テント、寝袋などもあります。

東日本大震災では3時間でこれらの資器材をドクターカーに詰め込み、個人の荷物も準備して出勤したわけですが、やはり急いでも出勤には数時間かかるのが現状でした。現在では、海外の災害に対する国際救援でも災害発生

後24時間以内に救助チームが出国することが国際標準とされており、ましてや国内災害では少しの遅れが大きな差になり得ます。

これを踏まえ、国と高知県からの補助も受けてDMAT専用車が近森病院に導入されました。上に挙げたような資器材はすべて搭載しており、6名のDMAT隊員が乗ることができます。活動服も入っていますので、普段着

のまま乗り込めますから1時間もかからずに出勤できます。

いざというときの備えの車両であり、日常は災害訓練や研修などで、街中や県外を走っています。救命救急のドクターカー、災害医療のDMAT車両、ともに「活動する機会がないに越したことはないけれど、いざというときの大きな力となる」存在でありたいと思っています。 いはら のりゆき

活動服など充実の車内



## 「近森は どこから来て、どこへ 行こうとしているのか」



近森 正幸

外科医として34年前、31歳で高知に帰ったとき、若造が跡を継ぐという反感もあってか、4、5人いた外科の先生方が急に辞めていった。朝7時からの回診後は外来、昼休みの回診後にまた外来があり、夕方6時から胃の全摘や肝切除の大きな手術なども看護婦さん相手に全部自分でやり、救急も断らずに、一年間まともに寝ずにひとりで頑張った。

このことから、ひとりでやることに

は限りがあると、身をもって教えられた。それが現在のチーム医療の発想につながっている。死に物狂いの一年を過ごしたことで、近森に来てくださった先生方やスタッフがやりがいをもって働ける舞台づくりが自分の役割だと心に刻んだ。その人のいいところを伸ばして自分の夢を実現してもらうことが、いちばん幸せなことだと思う。

それぞれの診療科、部門、部署、スタッフが自分で考え判断し自主的に動くことができるということではないだろうか。

とはいえ、組織として一人ひとりが勝手な方向に行動するのではなく、病院の理念や価値観に基いて、それぞれのパワーのベクトルを一点に集中させることが大切になる。

「近森はどこから来て、どこへ行こうとしているのか」を常に情報発信し続けることが、トップのもっとも大切な役割であり、自立、自動し価値観を共有できる人たちが集まっている組織が、これからも伸びていけるのだと信じている。理事長・ちかもり まさゆき

近森会  
保育室 **そると** あしながおじさんから「そると」に、たくさんの絵本が寄贈されました。



## 消化器内科 受賞報告



消化器内科薬枝弘司主任部長、梅下医師、村岡医師、時信研修医

### 第 99 回日本消化器病学会 四国支部例会 「研修医奨励賞」

近森病院消化器内科医師  
梅下 仁

今回、「ソラフェニブ少量投与が奏功している下大静脈浸潤を伴った多発肝細胞癌の1例」という演題で発表させていただきました。分子標的剤であるソラフェニブは、長期安定 (SD:stable disease) を目指す薬剤ですが、今回の症例は、完全奏功 (CR: complete response) しているもので、たいへん勉強になりました。

今回はこのような素晴らしい賞をいただき感慨と共に身が引き締まる思いです。また、来春の消化器病学会総会にも招待されました。この経験を日々の診療や今後の学会発表に生かし、専心していきたいと思ひます。

栄枝先生を始め、ご指導くださった先生方、ありがとうございました。

うめした じん

### 第 110 回日本消化器 内視鏡学会四国地方会 「専修医優秀演題賞」

近森病院消化器内科医師  
村岡 朋美

このたびはこのような賞をいただくことができ、とても光栄に思っております。初期研修医のときにはいただくことが出来なかった賞だったので、このような形で報告できることを嬉しく思っております。

各先生方には、忙しい中直前まで指導と、事前の練習にまでお付き合いいただき感謝の念でいっぱいです。各科の先生に指導していただいている最中にやはり近森は科の垣根が低いなど実感でき、各科のプロフェッショナルな意見をすぐ聞くことができ、意見を反映できたことでこの賞を頂けたのだと思います。

今後も結果に満足せず、日々精進していこうと思ひますのでよろしくお願ひします。

むらおか ともみ

## メディカルスタッフ・ワークウェア 13 臨床検査部

モデル：梅原加奈子

臨床検査部のワークウェアは薄いブルーの清涼感のあるウェアで、生理検査、輸血検査、細菌検査、病理検査、内視鏡検査、中央採血で全て統一されている。

現在 55 人のメンバーで構成され、検査だけでなく輸血、心臓カテーテル、内視鏡サポートなど手術以外のサポートも行っている。平成 25 年 8 月からは、内視鏡、心臓カテーテル、輸血、SRL(外部委託)の 4 名の当直体制に変更した。24 時間体制で、三次救急を根元から支えている。

変化の激しい医療界で、検査技師はより新しい知識を吸収する努力を惜しまず、専門性を高め「より速くより正確に」正しい診断のサポートをすることを目指す。自分たちが積み重ねて来たものが、患者さんの安全と健康を守る。そのため頑張り続ける。

研鑽を重ねながら忙しくも生き活きと働く、それが近森の臨床検査部である。

## 管理部長の こだわりヘルシー美食 34

最終回

近森会管理部長 川添 昇

広末涼子がクイズ番組でカツオを漢字で書いたら、なんと魚偏に土を二つ書いて(鮭)全国的な大笑いをされてしまった。親戚の鰹節屋をしているオジさんに大怒りされたようだ。小生も「それでも高知家かよ!」とツッコミを入れたくなった。

それにしても小生の鰹好きは異常でほぼ毎晩食している程だ。今回は、

### 「鰹尽くし」



画・臨床栄養部科長 吉田 妃佐

<作る> 横縞模様のあざやかな、できるだけ大きな腹身のサクを一本購入。三つに切り分ける。

① 頭に近い方の皮に横に切れ目を 2、3 本入れる。それを切って刺身に。ラップの下に氷を張った皿の上に並べる。

② 次にタタキを作る。フライパンにオリーブオイルを熱し、塩を振った身切れを皮身から焼いてゆく。まな板の上でポン酢でタタキながら塩分を取り、切り分ける。皿の上に冷水でさらしたタマネギを敷き、タタキを載せてミョウガや青そう、ネギを載せ、ポン酢やスミカンをしぼる。

③ 残った切身でユデ節を作る。塩を入れ沸騰した鍋に約 10 分(大きさにより調節)投入。切ってみて芯がピンクぐらいが good。

<食べる> キリッと冷やした酒をまず一飲みする。すかさず刺身を頬張る。そしてもう一飲み。「ウーム、土佐の鰹には土佐の酒」と独り嬉しがる。タタキを食べ終わるころには充分酔いが回って、締めは醤油をタップリ付けたユデ節で熱々のご飯を食べる。帰農した元同僚よりいただいた新米が甘くてことのほか旨い。残しておいた刺身をツケにして、翌朝鰹茶漬にする。なんという食い意地かと我ながら呆れてしまう。

## 看護部インターンシップ

2013- 夏  
ER・集中系コースのご紹介

近森病院救命救急病棟

看護師長 町田 清史



私たちは「近森病院のチーム医療を肌で感じさせてあげたい!!」、「近森病院で働きたいと思わせたい!!」、その一心で、各部署が全面協力しています。

救急認定ナースのエスコートにドクターカー、DMATカーの見学、手術直後の見学などなど、急性期の臨場感を十二分に味わっていただきたいと思い、万全の準備をして皆さんのお越しをお待ちしております。

夏休み企画として毎週水曜日を「インターンシップ day」として参加者2名を募集していますので、お知り合いの方にもぜひ薦めていただき、お誘い合わせてお申し込みください。お待ちしております!

まちだ きよふみ

看護部インターンシップのコースとして、ERをはじめ救命救急病棟、

## 私の趣味

## 家族で演奏会を

診療支援部医事課 上甲 浩道



僕の実家は母がピアノ教室をしています。もの心つく前から毎日ピアノの音を聞きながら育ちました。そんな環境に育ったので音楽に興味を持つことは僕にとって自然なことでした。僕が選んだ楽器は母が教えていたピアノではなくヴァイオリンでした。母曰く「自分でやりたいと言った」そうですが、幼い頃のことなので僕は覚えていません。しかし以来25年以上たった今も続けています。

楽器は練習をさぼるとすぐに弾けなくなってしまいます。学生時代は毎日2~4時間以上練習していましたが、働き始めてからは練習時間を捻出するのに一苦労です。休みの日に時間を作って練習するのですが、楽器を弾き始めると息子が寄ってきて「僕も弾く!」とせがんできます。そんな時は子供用のピアノを息子に弾かせ、「なんちゃってセッション」を楽しんでいます。いつか家族で演奏会ができればなと思っています。

じょうこう ひろみち

ICU、HCUが企画する「ER・集中系コース」があります。

看護学校では、ERや集中治療室の実習はあまりないと思いますので、ERや集中治療室での勤務を希望されている学生さんには、どのような部署であるのか実際に肌で感じ、見て知る事ができるまたとない機会です。

## 院外エッセイ

## 最後の宿題

嶋岡 晨 詩人、作家、評論家

しまおか（あきら）しん。1932（昭7）四万十町生まれ。高知工業高校建築科卒。明治大学文学部仏文科卒。詩誌「獺」創刊。「地球」「歷程」にも参加。立正大学文学部教授（平2~14）。詩集『永久運動』（昭40、岡本弥太賞）、『乾杯』（平11、小熊秀雄賞）、『終点オクシモロン』（平24、富田碎花賞）他。



今日は元気でも明日はわからない。人の命運は予知できない。「あの人が、まさか……」とは、よく聞く台詞。

当方八十過ぎ。降圧剤など常用しながら頑張っている。暇さえあれば（この齢になれば暇だらけだが）、なだらかな丘に連なる町なかを、雨の日も風の日もせつせと歩く。万事遅鈍な身にふさわしく、まだ杖はつかず、のろのろ歩く。

食い気もまだ充分。朝は、ゆで卵、野菜とハムを挟んだパン一片に、コーヒ。昼は麺類か芋。夜は缶ビール小一本と焼酎湯割（またはウイスキー水割）一杯で、野菜サラダ、魚（刺身か焼き物）、ときにポークソテーなど肉類をつまむ。飯は一杯（ときおり、ぬき）。上のメニューは体調に応じ本能的に変更。

だが、用心していても、年に一度くらいは病院の厄介になる。去年は咽の扁桃が化膿した。原因は、と訊くと、美形の医師が、

「ご高齢ですから…」とのたもうた。

その後期高齢者に残存するエロスは、女医さんには診えなかったか、丁寧親切に治療してくれた。彼女、谷崎潤一郎の読者でもなかったようだ。

「ひろっぱ」の紹介写真を見ると、近森病院には美人看護師が多いようで、次回はぜひ、こちらでご厄介に、と不屈なことを考えるが、当方の住む町田市からは遠すぎて、残念。いや、冗談冗談。半分ボケのきた老人の眩き、大目に見てやってください。

ところで、九十何歳かで亡くなった詩人・評論家、伊藤信吉さんは、「転ぶな、寝つくな、義理を欠け」がモットーだった。冠婚葬祭にまつわる俗世のつきあい、そのギリを欠くエゴイズムも、長生きには必要だろう。他人の葬式に無理して出たため、発病し——というのは、なさけない。

問題は、さて努力し健康で長生きし、その人生の最終段階で何をなすか、だろう。これはなかなか難しい「宿題」である。

## 必要なときに 必要な栄養サポートを

近森病院臨床栄養部  
部長 宮澤 靖



1970年代にアメリカで発足したNST（栄養サポートチーム）は、1980年代後半によく日本にも導入されるようになりました。当時は一部の外科代謝学を専門としている医師が、在

籍している施設で、限られた診療科で行なっていました。

1995年、全国で初めて全科型のNSTが長野市民病院で導入され、私もそのメンバーの一人でした。当時は「栄養は二の次、三の次」の時代でしたので、抵抗勢力や無関心層が大多数でありました。2000年に入り、多くの

施設でNSTが稼働されるようになり、現在では約2500施設で稼働しています。

近森病院でも高知県で初めてのNSTが2003年から活動を開始して、チーム医療の素地があり理解のあるスタッフのもとで瞬く間に全国一の症例数を数えるチームになり、育てていただきました。

大切なことは「必要な患者さんすべてに、必要なときに必要な栄養サポートを提供する」、近森会NST Chairmanであり、近森正幸理事長の指導をいただき、今日も病棟で管理栄養士は命と栄養を守っています。

みやざわ やすし

### お知らせ 医療従事者対象

#### ●第113回地域医療講演会

「致死性不整脈治療の update」

日時：8月16日（金）18:00～19:30

会場：管理棟3階会議室

講師：杏林大学医学部

第二内科学（循環器内科）

准教授 副島京子先生

#### ●第114回地域医療講演会

「カテーテルアブレーション

夢と期待から現実へ」

日時：8月23日（金）18:00～19:30

会場：管理棟3階会議室2

講師：弘前大学大学院医学研究科

循環呼吸腎臓内科学

教授 奥村謙先生

#### ●第115回地域医療講演会

「下肢装具の現在の動向について」

日時：8月23日（金）17:30～

会場：近森リハビリテーション病院5階PT室

講師：かがわ総合リハビリテーション病院

病院長 木下篤先生

藤田保健衛生大学医学部

リハビリテーション医学講座

医師 沢田光思郎先生

#### ●第116回地域医療講演会

「不足を補う漢方薬」

日時：9月6日（金）19:00～21:00（仮）

会場：管理棟3階会議室

講師：静仁会静内病院院長 井齊偉矢先生

#### ●第117回地域医療講演会

日時：9月13日（金）19:00～21:00

会場：管理棟3階会議室

講師：アティチューアディナル・ヒーリング・

ジャパン代表

対人関係療法専門クリニック院長

慶応義塾大学医学部非常勤講師

（精神神経科）水島広子先生

講師の稲葉一人先生



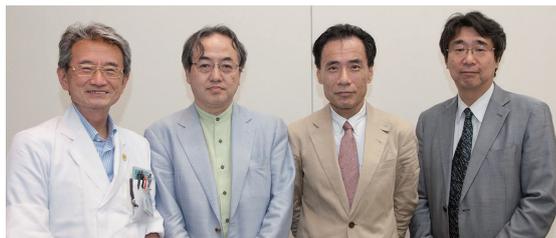
7月4日、中京大学法科大学院教授の稲葉一人先生をお迎えし、第111回地域医療講演会を開催しました。今回は我々があまり勉強する機会のない医療と法をテーマに「医療者が自分でマネージメントする法的リスク」というタイトルでご講演していただきました。

刑事手続きや患者家族対応における誤解、「資格・免許を得た者が患者らとの契約の中で、患者個人の情報を扱いながら、専門家の業務として侵襲を与える」という医療の定義、そして、ご自身が経験した具体的事例なども示されながら分かりやすくお話いただきました。

近森病院循環器内科主任部長 川井 和哉

社会のルールを踏まえた医療を行うためには、法を知ることや過失対策と説明義務が必要です。とくに説明義務については定型的な説明だけでなく、患者の関心やニーズを踏まえた丁寧な説明が重要であるご指導いただきました。法を知り法的リスクから自分を守り、堂々と自信をもった医療をおこなうためにも有意義な講演会でした。医師は科を超えた連携が必要であるとの言葉がとくに印象的でした。

かわい かずや



左から近森正幸理事長、高知大学高田淳先生、講師の稲葉一人先生、筆者

## お弁当拝見 16 我が家の遠足のお弁当



近森リハビリテーション病院

4階西病棟看護師 川村 しのぶ

小学6年生、3年生の娘のお弁当を作るといっても遠足や、運動会など年に数回しかありません。作るときには子供たちの好きなミニトマト、緑の野菜、卵は必ず入り、キャラ弁を作る器用さの無い私は、おにぎりをウサギやクマの形に握り、中に鮭を入れるのが我が家の定番のお弁当になっています。子供たちも楽しみにしてくれて、「みんながかわいって言いよった」

「今日はウサギやったね」などと言って、喜んで帰ってきます。

また、帰ってくるといつもお弁当は完食しており、「お母さんのお弁当は給食より一番おいしい」と、お褒めの言葉をいただきます。来年からは長女は中学生になり、毎朝お弁当作りになりますが、子供たちの喜ぶ顔を励みにがんばって早起きしてお弁当作りを頑張りたいと思います。

かわむら しのぶ



# 糖尿病外来の充実に向けて

近森病院糖尿病  
内分泌代謝内科部長 公文 義雄



糖尿病には合併症がつきものです。とくに、眼や腎臓が悪くなるとか、脳梗塞や心筋梗塞をいちど発症すると、患者さんは甚大な障害を背負うこととなります。

糖尿病治療の目的は、この合併症を押さえて、健常人と同様の生活の質を保つ



宮岡副院長（後列左から4人目）を囲んで

ことです。それには患者へのていねい

な指導や支援が必要であり、多職種によるチーム医療が必要とされる所以です。

先日、済生会松山病院副院長宮岡弘明先生のご好意で、全国的にも有名な同院糖尿病センターを見学させていただきました。各職種スタッフが患者に接して効率的に介入しておられ、患者さんの笑顔がのぞくスムーズな外来診療を見せていただきました。

いまの我々にはハードもソフトもすべてを学ぶ必要がありますが、帰りの車中で当院の課題を声高に語る皆の声を聞きました。

「我々も変わろう」

くもん よしたか

## 研修病院自慢で一番に

初期研修医 重清 知子

7月5～7日に開催された「ERアップデート in 沖縄」に2年目研修医6名で参加しました。このセミナーは、福井大学の寺澤秀一先生、林寛之先生をはじめとする魅力あふれる講師の先生方による講義やワークショップで学び、また全国の指導医の先生方や研修医と交流するセミナーです。

「うちの研修病院自慢コーナー」で、近森病院および研修の特徴について、

林先生と一緒に。右手前が筆者



カツオ人間の紹介と共にプレゼンテーションさせていただき、晴れて一番に選ばれました。今回のセミナーで学んだことを生かし、更に充実した研修になるように努力していこうと思います。

しげきよ ともこ

## ハッスル研修医 初心を忘れずに



初期研修医 重田 倫子

この4月から消化器内科でお世話になっています。研修が始まり、はや3カ月経ちましたが、まだまだ知らないことだらけで、先生方やコメディカルの方々に支えられ、たくさんのお話を学ばせていただいています。近森病院では、すれ違うときに皆さんが挨拶をしてくださいます。挨拶一つで雰囲気が大きく変わり、表情も明るくなるので、挨拶を大切にしていきたいです。

蝉の声が聞こえ始め、夏がやってきました。日差しが強くて、建物の移動だけなのに、こんがり日焼けしています。学生時代はテニス、キャンプ、川、海へ行って過ごしていました。今年の夏は何をして楽しもうか模索中です。メリハリをつけて充実した毎日を送りたいです。

これからも、初心を忘れずに、ひとつでも多くのことを得られるよう努力いたしますので、ご指導のほどよろしくお願いいたします。

しげた のりこ

## リレーエッセイ



### 甲子園

近森病院救命救急病棟  
看護師主任 増井 麻佳



甲子園は現在の私の原点だと思っています。私には思い入れの強い三文字です。

高校時代、野球部のマネージャーをしていました。県大会では、スコアブックをつけるためにベンチ入りをさせてもらい、運動音痴でなんの取り柄のない私でも夢の舞台を目指すことができました。試合でウグイス嬢をさせられたり、切符売りのお手伝いをさせられたりして、舞台裏を少し覗かせてもらったことも良き思い出です。

今でも、時間があれば県大会を観に行きます。以前、看護学校時代を過ごした香川県でも、毎年、県大会の観戦に行っていました。知らない高校でも時間の許す限り観戦していられます。その魅力は一体何なので



しょうか？とってもベタな表現ですが、頑張っている姿はやっぱり素敵！ということでしょうか。

実は、私自身は甲子園出場を果たしてはいません。でも、息子の二人のうちどちらかでも野球部に入ってくれないかな、と淡い期待を抱きながらキャッチボールの相手をするのが今の楽しみです。今年も、もうすぐ熱い夏が開幕ですね！！

ますい あさか

## 心臓血管外科

### 米国研修に参加して

近森病院看護部長

吉永 富美

近森病院救命救急病棟看護師

久家 由美

吉永 (左) と久家 (右)



5月1～12日、心臓血管外科の米国研修に参加中、ピッツバーグ大学医療センター (University of Pittsburgh medical Center) の病院を見学させていただきました。ここは米国ペンシルベニア州最大の医療センターで、心臓移植や補助人工心臓、肺移植の米国の中心的施設です。

見学には肺移植チームの重村周文先生に病院を案内してもらい、肺移植のカンファレンスもありました。参加者は重村医師、NP (ナース・プロテクション)、PA (フィジシャンズ・アシスタント)、薬剤師、ソーシャルワーカー、感染の専門医師、看護師長などです。

複雑な症例ばかりのなかで、免疫抑制剤の選択や量の決定、肺炎症例の対応や退院後の生活の調整などが検討されていました。保険会社からの監査は厳しく、平均在院日数も短いのが特徴で、周辺にはナーシングホームなどの療養施設が多く整備され、退院後も安心して過ごせるようになっています。

NPのスーザンは看護大学を卒業後、実務を経験した後、それぞれ2年間、心臓血管外科と肺移植の領域の勉強してNPの資格を取りました。70%が医療行為で、免疫抑制剤の選択や量の決定も決定します。肺移植チームには、1名のNPと3名のPA (フィジシャンズ・アシスタント：医師の指示があれば医療行為ができる) が活躍しています。

NPのスーザンが入院時指示を出し、医師は手術の説明をするのみで、手術



肺移植術後のベッド準備中

までに必要な検査結果などのデータがそろそろです。看護計画は電子カルテでほぼ標準化されていてクリニカルパスのような感じでした。

UPMCは関連の職員は約50,000人、医師数5,000名と、その大きさに驚きましたが、システムや設備、医療機器などは当院とあまり変わらず、近森病院も世界レベルにあまりひけをとらな



## 巨大な建物に調剤ロボット

近森病院薬剤部

薬剤師 明神 有希

想像以上に大きい調剤ロボット

今回、薬剤師のなかでも特別な教育課程を修了した、いわば「スーパー薬剤師」の話を聞くことができました。そこでの業務内容は、服薬指導、薬物相互作用や臨床を理解した上での薬剤適正使用の実施、各種カンファレンスへの参加等であり、現在の私たちの業務でも行えていることでした。私たちにはさらなる質の向上が望まれますが、決して引けをとるものではないと自信を持って帰ってきました。

大きく異なっているのはテクニシャン (調剤助手) の人数です。UPMCでは薬剤師55人、テクニシャン約100人が働いています。さらに調剤ロボットを使用しているとのことで、薬剤部内も見学させていただきました。ロボットは巨大な工場の倉庫で稼動していて想像とは大きく異なり、写真にも収まりきれませんでした。

調剤業務はテクニシャンやロボットに任せ、薬剤師は薬剤師にしかできない服薬指導や薬剤アセスメント等の業務を行

左から明神有希薬剤師、ICU師長のジョニ、吉永富美看護部長、久家由美看護師

いと感じました。職種間で業務が細分化されていましたが、チーム医療の面では近森病院の方が、各職種がそれぞれ専門性をもって患者と関わることができ、よりベッドサイドで展開できていると感じました。

よしなが ふみ/くげ ゆみ



うことによって薬剤適正使用に繋がります。更に医療費の削減や病院利益の増加に繋がっていくと思われます。(ICUに薬剤師1人常駐することで、1.9倍の利益増加に繋がったそうです)

今後、日本の薬剤師もアメリカにより近づけるよう、幅広い知識を習得して医療の質の向上に繋げ、より信頼される薬剤師を目指して日々の業務に携わっていきたいと思います。薬剤部のスタッフには不在期間ご迷惑をお掛けしました。 みょうじん ゆき

### 地域医療講演会 ● 実習編

#### 第5回心臓血管ウェットラボ 「心臓の解剖と心臓治療」

心臓をまったく見たことがない人から透視でしか見たことがない人、さわってみたい人、いままら他人には聞けない立場の人など、どうぞ参加ください。職種に制限はありません。

※詳しくはホームページをご覧ください。

日時 平成25年11月10日(日曜)

10:00～15:00

場所 管理棟3階会議室

# 運命を 切り拓いて 力強く！

▶ 14年前、脳神経外科高橋潔部長の大手術を受け、見事に復活！  
のど夫妻と。「その助け合う姿に訪問側が却って励まされる」という

## 人間の総合力が問われる訪問看護師

訪問看護師として働き始めてこの8月で丸一年になる。正看護師の資格取得からは20年以上が過ぎているが、そのうちの11年間はフランスで結婚生活を送っていたために本格的な看護職は久しぶりの挑戦である。

訪問の毎日は、看護職の醍醐味に改めて気づかされ、臨機応変の力が求められ、いってみれば「人間総合力が問われる舞台でもある」と感じるという。ただし、異国で主婦を続けながら、パリ日本人学校の医務室にも勤めた経験が現在に活かされるというのか、「しんどかったけれど、無駄なことはひとつもなかった」と、懐かしそうな目をしている。

## 真夏のサンタクロースの贈り物

フランスの地中海沿岸の町コート・ダジュールで過ごした日々は、なににも代え難い刺激に満ちていた。この夏休みには、今は離れて暮らす二人の息子たちが日本の母親に逢いに来ることになっている。ちょっと夢みtainな贈り物がサンタクロースによって届けられる気分だという。



2013年7月23日、真夏のサンタクロースの贈り物！の息子たちに囲まれてHappy! Mayo



## 手に職のつく二つの道

子ども時代は、忙しい仕事を持つ母親に代わって、高等女学校を出てすぐ結婚し専業主婦として子や孫の世話をしてくれたおばあちゃんとの関わりが多く、おばあちゃん子の自覚が強い。その大好きなおばあちゃんに、「手に職のない女性の人生はつまらんよ。手に職を付けなさい！」と呪文のように言われてきた。

追手前高校で学び、選択肢は広くしつつも「立派に手に職の付く看護師」と、小さい頃から憧れていたお菓子職人の両方を目指すことにして、まずは看護の道へ。倉敷中央病院と東京都済生会中央病院で働いたあと、今度はお菓子職人として友人のイタリアンバール「Baffone」の立ち上げから関わるようになった。

東京生活は学ぶことも多く、色々蓄積できた反面、不規則な勤務で神経をすり減らし、ネを上げそうになっていて、抜群のタイミングで誘われたためだった。

## 「明日からフランスに渡ります！」

高知で、健康を取り戻しつつ一心にお菓子を創っているとやっぱり本場を知りたい思いがフツフツと湧いてくる。

そもそも、真世さんの原風景には母親の友だちでいつもフランスへ旅行していたハイカラなキャリアガールが登場する。全身をブランドで固めたような、おしゃれでしかも颯爽とした姿に、いつか自分もフランスで過ごすんだ！と、夢が信念ようになっていったという。

高校卒業以来、手に職を付けるためなら好きにしないと応援してくれていた家族には、「明日からフランスに渡ります！」と、宣言し、レストランは円満退社で、また新しい挑戦！！

憧れのパリでの生活。お菓子職人の修業とフランス語の勉強。まるで、夢のような生活だった。日本風な畳の間の離れ

屋敷を持つ大地主の息子と出会い、結婚することになったことで、また新たな道が拓かれた。

ただし、「国際結婚の難しさ」に打ちひしがれる日もあり、11年経ったある日、「自分がやりたかったのは、フランスであくせく主婦をすることではない。リセットをいつするの!? 今でしょ！日本に帰ろう。原点へ戻ろう！」と、またまた大きな決断をした。

## 与えられた運命に従って…

どの局面でも自分で主体的に運命を切り拓いてきたつもりだったが、実は与えられた運命に従ってきただけかも知れないと、この頃なんだか肩の力が抜けてきたそう。真夏のサンタクロースの贈り物を楽しみに、息子たちの成長を夢見て、しかも自分らしさを精いっぱい出していききたい。

利用者の皆さんの希望に繋がる業務に喜びを見いだしつつ、体力的にはきつい、納得のいく毎日が過ぎている。

## ワインの王様 ブルゴーニュ

その5

モルゴン・キュヴェ・マルセル・ラピエール/生産者:マルセル・ラピエール/生産地:ブルゴーニュ・ボージョレ地区/素晴らしい優良年にのみリリースされるスペシャルワイン。区画で最も樹齢の高いぶどうを厳選して造られ、熟成するとまるで上質のピノ・ノワールのように変貌します。

### ブルゴーニュの 最高のワインとは

ブルゴーニュ地方は、ロマネ・コンティや、ラ・ターシュに代表される高名なワインが数多く存在します。

私が思う最高のワインとは、ブルゴーニュ地方にありながら、軽視されているボージョレ地区のラピエール家のワイン。ボージョレと言えば、ビジネス的に一番当りをとったのが皆さんご存知のヌーヴォーです。ボージョレといえば、ヌーヴォーのイメージがあまりにも大きく、好んで購入する方は少数です。

しかし、彼らは、3世代にわたってワイン造りに携わり、この土地の個性を表現することに努めています。その歴史と経験に裏打ちされた手法でモルゴンの、そしてボー

ジョレのテロワールを描き出しています。テクニクでワインを造るのではなく、その村や畑、樹齢、酵母にまでこだわり、本当の個性やテロワールを映し出すことに努めています。そのために畑では出来る限り自然な農業を行い、自然環境やその中にいる微生物を大事にしています。熟成させる事で、その味わいは、さなぎが蝶になるかのようで、人々の心を動かすほどの素晴らしいワインを造り続けています。 鬼田知明 (有限会社鬼田酒店代表)



## 編集室通信

県内に道の駅がいくつあるかご存知だろうか。いま道の駅スタンプラリーに挑戦している。東は「室戸」、西は「大月」まで21の道の駅がある。巡っていくと、昔と変わらない自然いっぱいの風景に出会える。四万十川の沈下橋、鯉のぼり川渡し、日本一の大杉、咸陽島、竜串海岸…。各地の美味しいものにもたくさん出会える。ちりめん井、きじラーメン、きびなごケンピ、塩ジェラート…。完走まであと2駅、この夏中のゴールを目指して、ただ今高知の魅力再発見中である。 リンダ

● 平成 25 年 6 月 県外出張件数 ●  
件数 59 件 延べ人数 127 人

## 2013 年 6 月の診療数 システム管理室

### 近森会グループ

外来患者数	16,489 人
新入院患者数	794 人
退院患者数	848 人

### 近森病院

平均在院日数	13.80 日
地域医療支援病院紹介率	89.17 %
救急車搬入件数	359 件
うち入院件数	208 件
手術件数	377 件
うち手術室実施	234 件
→うち全身麻酔件数	143 件

## 図書室便り (2013 年 6 月受入分)

- ・急性肺炎診療ガイドライン第3版/改訂出版委員会(編)
- ・骨外傷の画像診断ハンドブック/江原茂
- ・ここまでわかる頭部救急のCT・MRI / 井田正博
- ・胸部画像診断スタンダード/高橋雅士(他編)
- ・EULAR リウマチ性疾患超音波テキスト/ Richard J. Wakefield (著)、大野滋(監訳)
- ・足の画像診断/小橋由紋子
- ・関節のMRI 第2版/福田国彦(他編)
- ・ガートナー/ハイアット組織学カラーアトラス第2版/ Leslie P.Gartner (他著) 松村讓兒(他訳)
- ・組織学カラーアトラス/ Finn Geneser(著) 廣澤一成(訳)
- ・カラーアトラス顕微鏡写真で見る細胞組織学/ Wolfgang Kuehnel (他著) 坂井建雄(他訳)
- ・急性中毒情報ファイル第4版/森博美(他編著)
- ・病院薬局製剤事例集 院内製剤の調剤及び使用に関する指針準拠/日本病院薬剤師会(監修)
- ・がん緩和ケアガイドブック/日本医師会(監修)
- ・がん疼痛の薬物療法に関するガイドライン 2010 年版/日本緩和医療学会緩和医療ガイドライン作成委員会(編集)

- ・そこが知りたい! 事故事例から学ぶ訪問看護の安全対策第2版/全国訪問看護士協会(編)
- ・Advance in Aging and Health Research 2012 高齢期における生活習慣病/祖父江逸郎(他著)
- ・TNM 悪性腫瘍の分類第7版(第5刷) 日本語版/ Leslie Sobin (他著)、UICC 日本委員会(他編) 《別冊・増刊号》
- ・別冊医学のあゆみ 摂食障害 Update - 研究と診療の最前線/切池信夫(編)
- ・レジデントノート別冊できる! 見える! 活かす! グラム染色からの感染症診断 検体採取・染色・観察の基本とケースで身につく診断力/田里大輔(他著)
- ・Nursing BUSINESS2013 年夏季増刊スタッフを「自ら学ぶ看護師」に育てる! 看護師長の「超」指導力アップ術 今身につけておきたい10の指導力/松浦正子(編著)
- ・Emergency Care 2013 年夏季増刊救急看護 必須知識&アセスメントクイズ 新人からエキスパートまで レベル別にわかる!/寺師榮(編集) 《視聴覚資料》
- ・VIDEO JOURNAL of Japan Neurosurgery Vol.20 No.3,4 / 永田泉(他監修)